

Changing finance, financing change



UNEP **Finance Initiative**

「金融に係るGHG排出量」の 算定、開示及び管理

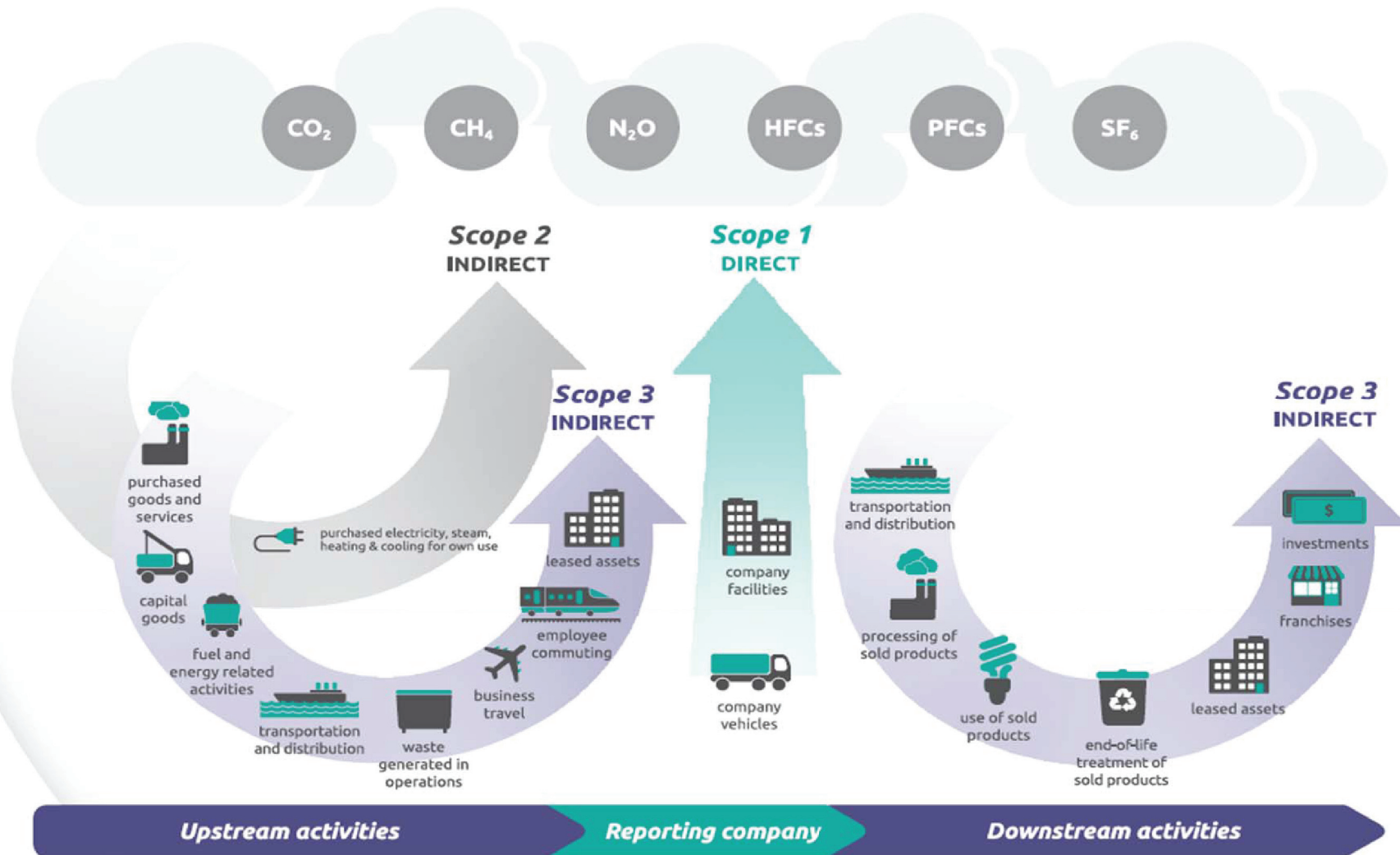
UNEP(国連環境計画) 金融イニシアチブ 安井有紀

2013年11月

＜ご留意事項＞

- 本資料は、「国際ワークショップ “Scope3と組織のLCA”」(2013年11月21日)における安井有紀氏(UNEP金融イニシアチブ)の「スコープ3金融セクターガイダンスの開発ーファイナンスのカーボンフットプリントを測るー」を、みずほ情報総研株式会社が仮訳したものです。
- 本資料の利用に際しては、翻訳に関する二次著作権の扱いを含め、お取扱には充分ご注意ください。

企業のGHG排出量の3つのスコープ



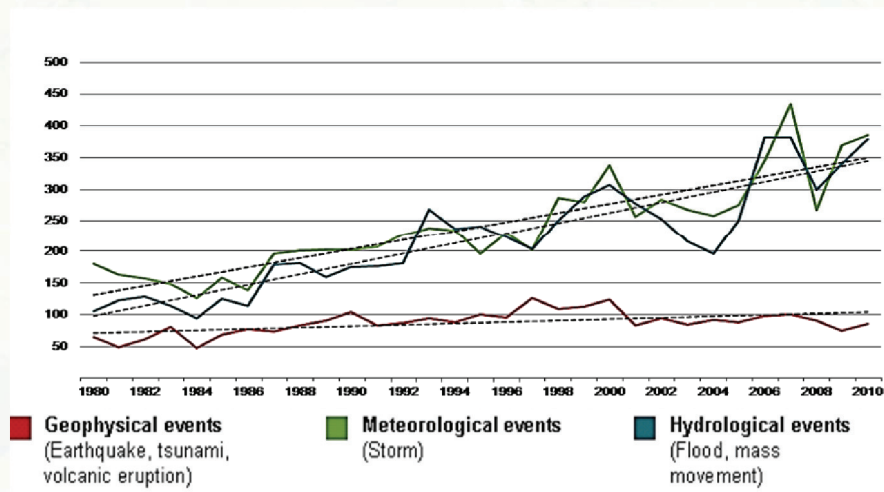
Source: The Greenhouse Gas Protocol, 2011⁷³

カーボンリスク – 2つのR

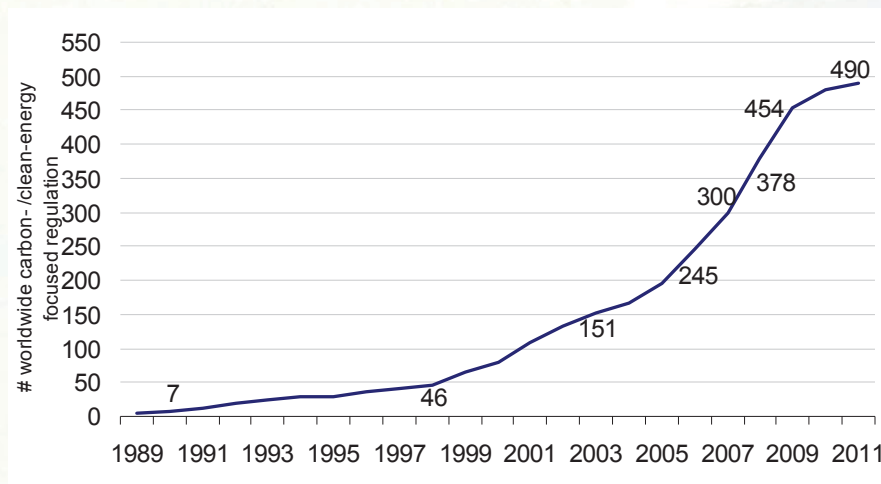
1. 規制リスク (Regulatory risk)
2. 評判リスク (Reputational risk)

なぜGHG排出量における金融機関の重要性が増しているのか

1. 気候への影響拡大



2. 安定的にボトムアップ型で積み上げられてきた公共政策



3. 投資家に関する透明性への期待の高まり

4. 規制当局は、事業者及び投資家に対して報告を義務付ける方向

いかにして金融機関はカーボンリスクの影響を管理できるか

1. カーボンリスクの影響を把握し、算定する。
2. 企業及びポートフォリオレベルのカーボンフットプリント分析。
3. 「金融に係るGHG排出量 (financed emissions)」の報告によって、ステークホルダーや規制による開示圧力に対応するとともに、環境への責務と「継時的な進捗」を示す。
4. 個々の投資とポートフォリオ全体のカーボンフットプリントを削減することで、リスクを管理する。

いかにして金融機関はカーボンリスクの影響を管理できるか

1. 把握 及び 算定

- 外部リスク要因のマッピング: 政策、市場、技術、社会
- カーボンフットプリントの定量化
- *質的かつ量的* なアプローチの両方が必要

いかにして金融機関はカーボンリスクの影響を管理できるか

2. 企業及び実施ポートフォリオレベルのカーボン排出原単位の算定

- 包括的なカーボンリスク評価は、企業又は「ポジション」レベルでのカーボンフットプリント分析を必要とする場合が多い。
- しかし、以下については、ポートフォリオレベルのカーボンフットプリント分析が重要である：
 1. ディスクロージャー: 顧客への報告／社会への説明責任／進捗の継続的追跡
 2. リスクマネジメント: 「外部要因」が継続している場合／リスク影響の継続的追跡

いかにして金融機関はカーボンリスクの影響を管理できるか

3. 「金融に係るGHG排出量」の報告によって、ステークホルダーや規制による開示圧力に対応するとともに、環境への責務と「継時的な進捗」を示す。
- 金融に係るGHG排出量のしっかりした有意義な開示により、評判リスクを回避する。
 - 外部の情報利用者に対して、「同一条件で比較する必要性」を訴える。
 - 有意義だが現実的なカーボン削減目標を設定し、継時的な進捗を追跡する。
 - 準拠すべき「質的な開示基準」が必要。

いかにして金融機関はカーボンリスクの影響を管理できるか

4. カーボンリスクの削減

- 「地理学的アプローチ」(カーボンリスクの影響に関する規制部分は削減するが、評判部分は削減しない)
- 「カーボンフットプリントアプローチ」(カーボンリスクの影響に関する規制部分と評判部分の両方を削減する)
 1. セクター配分
 2. 銘柄選定
 3. 契約
 4. カーボン傾斜指数 (carbon-tilted indexes) へのパッシブ投資

金融機関のGHG排出原単位の算定・開示 における障壁とは

- 政策が弱く、評判リスク要因があるという認識
- 企業のGHGデータの品質、入手可能性、及びコスト
- 分析の方法論と解釈

金融機関のGHG排出原単位の算定及び 開示における次のステップとは

- 戦略的対応の策定 – カーボンフットプリントに基づき、スコープ3の全ての実績に対応するため
- 産業界主導アプローチによる、社会的、規制的な開示要件への期待
- 共通のデータと方法論を連携して開発
- 株主関与や資産配分の決定事項を知らせるための、カーボン実績結果の使用

資産所有者の役割

“At Local Government Super, we regularly monitor the carbon performance of the companies in our portfolios, as well as of our portfolios themselves. This dual approach helps us assess and manage carbon risks, compare our own carbon performance to that of our peers, and clearly communicate with our members on the climate change and greenhouse gas issues associated with their savings.”

Peter Lambert, CEO, Local Government Super⁷⁸



ポートフォリオレベルのカーボンフットプリントの役割

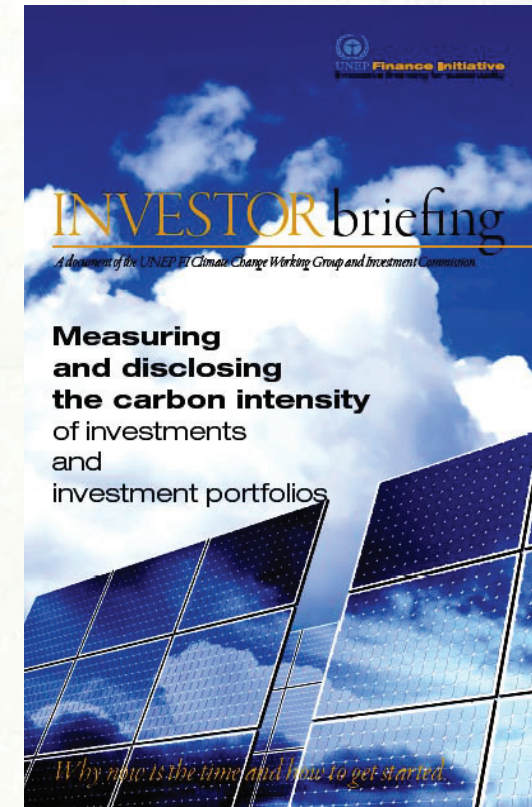
- 顧客報告及びポジショニング
- マネージャーによるモニタリング
- 継時的な効率性向上
- リスク管理
- 社会に対する説明責任

UNEP金融イニシアチブの取り組み: 第1段階

投資家への説明:

投資及び投資ポートフォリオの
カーボン排出原単位を算定し、開示する

unepfi.orgで入手可能



UNEP金融イニシアチブとGHGプロトコル: これまでの道のり

関連するスコーピング段階:

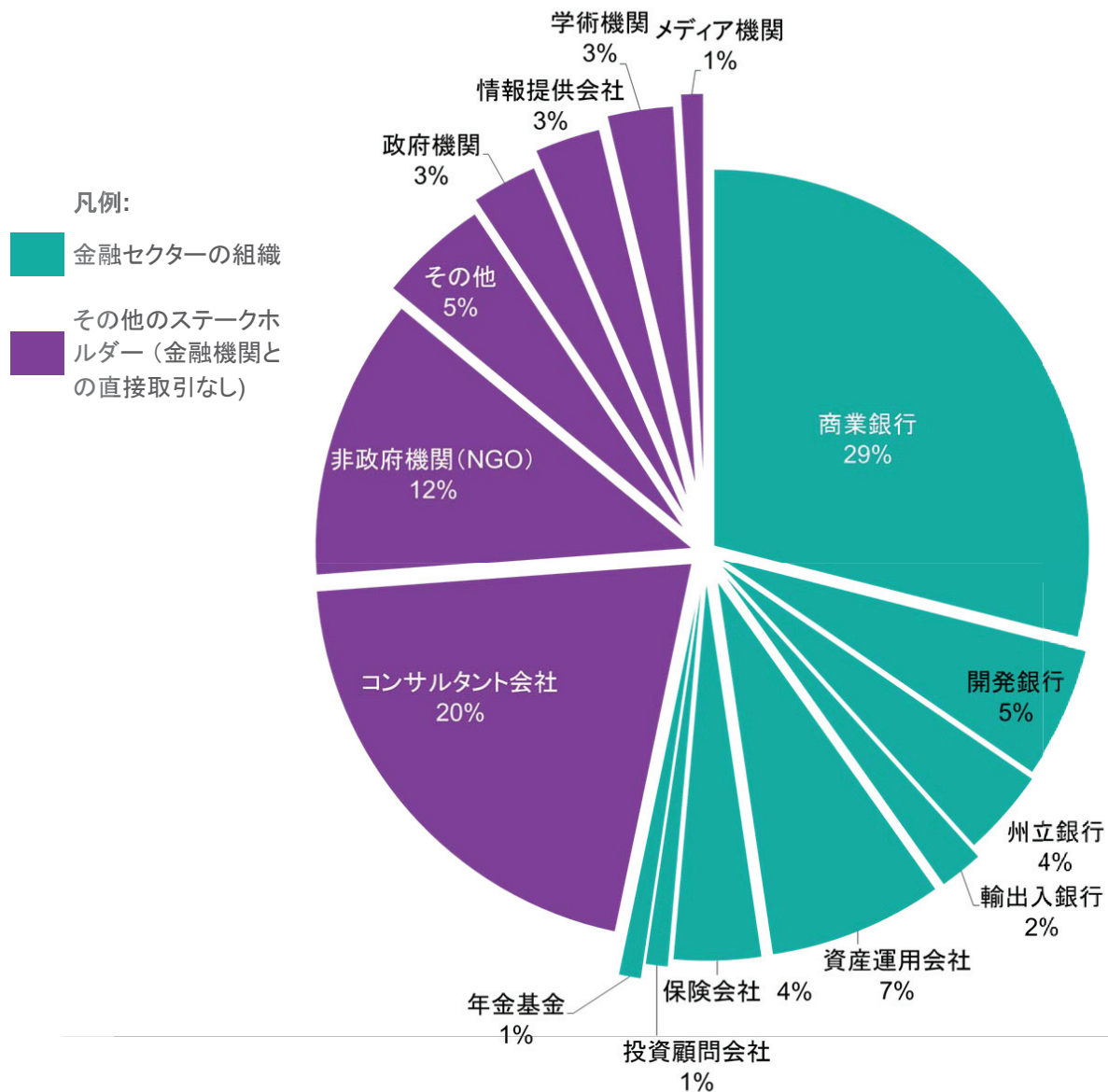
- 金融機関を主とする104の組織を対象としたグローバルな調査を実施
- スコーピングのワークショップを、ロンドン、ニューヨーク、メルボルンの3会場で開催
- UNEP金融イニシアチブのメンバーとの内部協議
- 成果：金融機関による合理的で有意義なGHGの算定及び報告を可能にするガイダンスの策定を義務付けた（GHGプロトコル基準の原理に準拠）



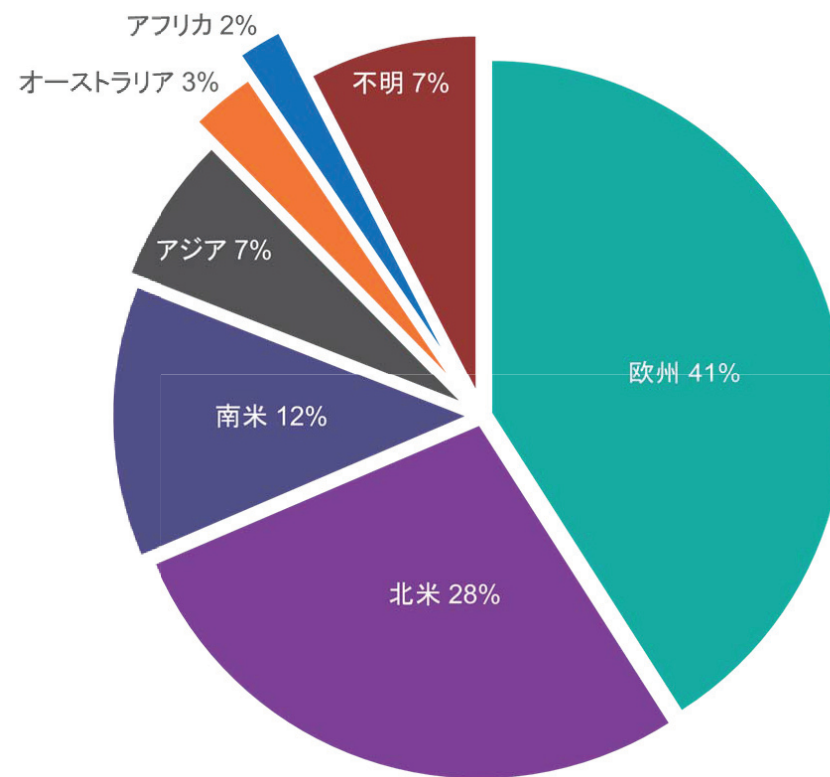


107の組織が調査に回答

組織形態別の回答者内訳:

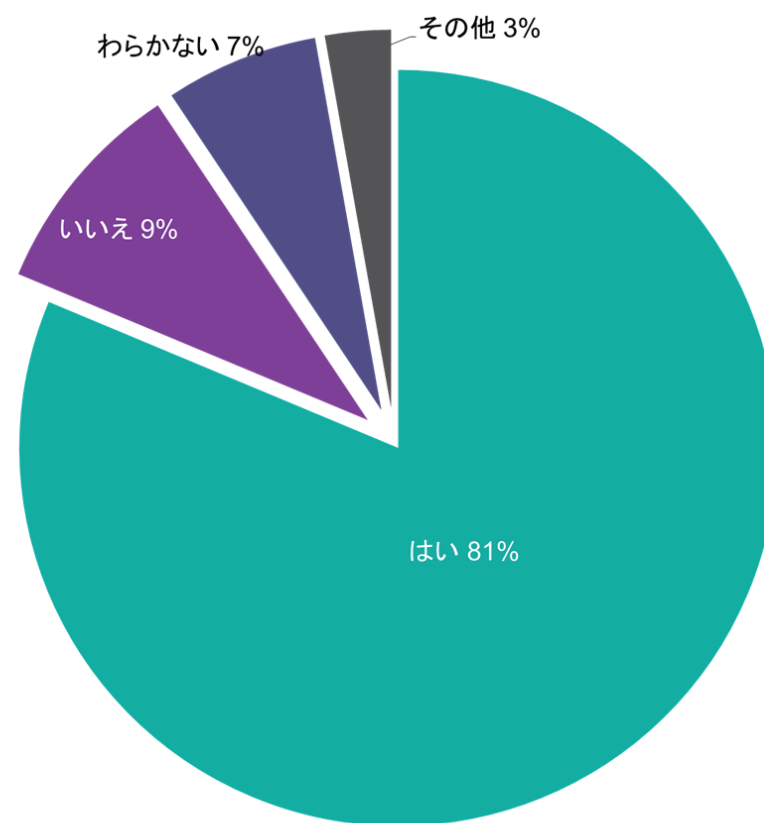
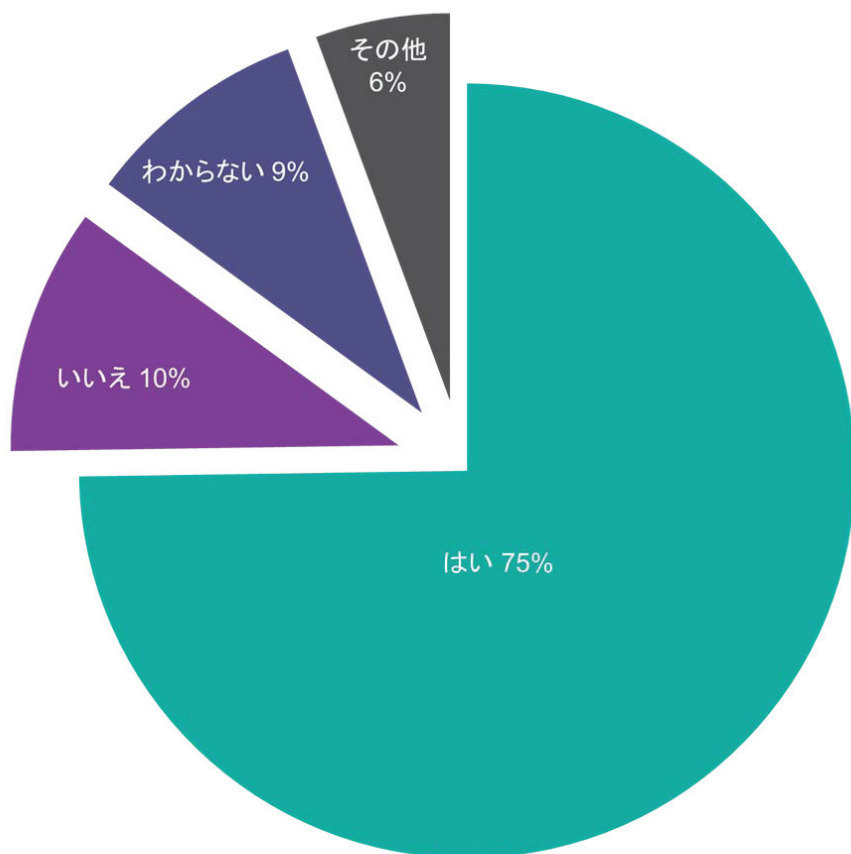


地域別の回答者内訳:

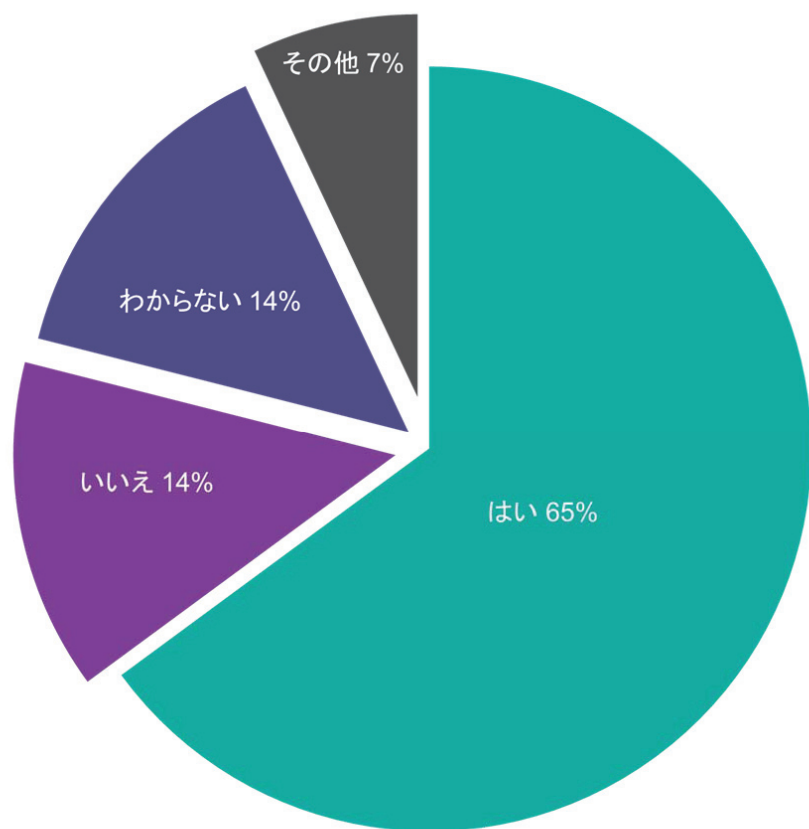


質問1： 融資及び投資に関連する
排出量の算定と報告は、業務上
重要な問題か。

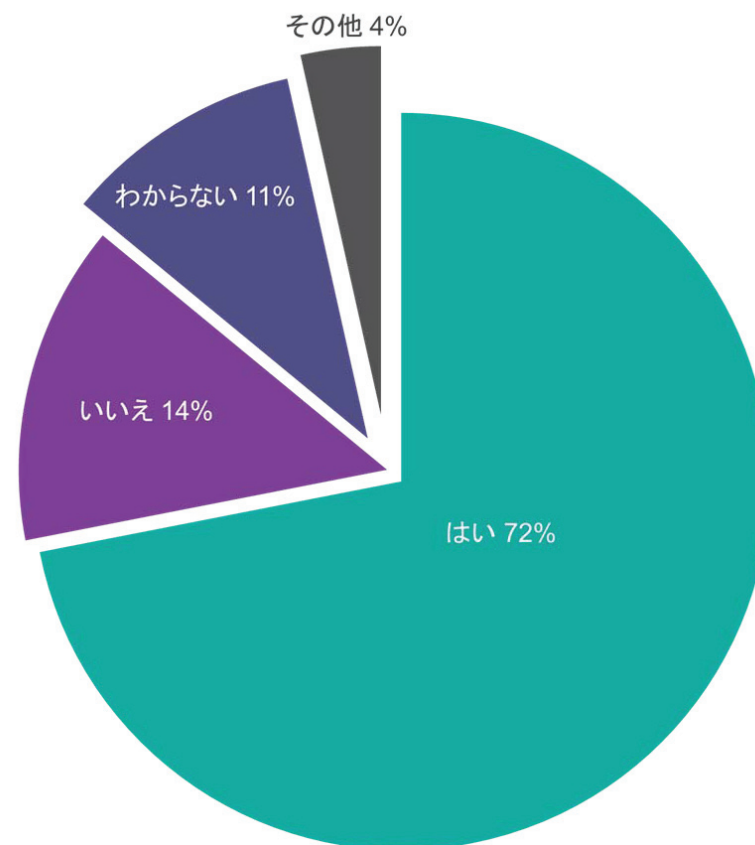
質問2： 金融GHG排出量の算定に
関する標準化された方法論や
ガイダンスに対して、重大かつ長
期的なニーズがあるか。



質問1(金融機関のみ):
融資及び投資に関する排出量の算定と報告は業務上重要な問題か。



質問2(金融機関のみ):
金融GHG排出量の算定に関する標準化された方法論やガイダンスに対して、重大かつ長期的なニーズがあるか。



回答企業が、業務上の重要な課題であり、ガイダンスが必要と回答した理由

- リスク管理のため。
- 事業機会及びGHG削減機会を特定するため。
- 削減目標の設定と追跡を進めるため。
- 説明責任及び透明性（及び評判）向上のため。
- 比較可能性とベンチマーク化を実現するため。
- 普及している方法論と調和化させるため。
- 被投資者や借入人に関するリクエストされた情報を一致させるため。
- 手法の信頼性／信用性を高めるため。
- ガイダンスは、この複雑な課題に取り組んでいる金融機関の役に立つと思われるから。
- 「グリーンウォッシング」を防止するため。



UNEP金融イニシアチブとGHGプロトコル: 今後の道のり

今後2年間で、金融業界の積極的な参加と協力の下、マルチステークホルダー・プロセスにより、以下を行う:

1. GHG排出量の算定と報告に関する基準及びガイダンスの策定において培われたGHGプロトコルの専門知識を有効活用する。
2. 金融セクターの機能性やニーズに関するUNEP金融イニシアチブの専門知識、及び金融コミュニティ内でUNEPが獲得した正当性を有効活用する。
3. 広く認可され、実際に実施可能で、且つ業界が支持するガイダンスを提供することにより、幅広い採用と影響を実現する。



回答企業が、業務上の重要な課題ではなく、ガイダンスは必要ないと回答した理由

- 排出量は、貸主や投資家毎に算定するのではなく、排出源毎に算定し管理すべきである。
- 金融GHG排出量の算定は極めて困難であり、膨大な時間を要する。
- 金融GHG排出量の算定とリスク評価の枠組みとの間に関連性が確立されていないため。
- 金融機関は、より有効なリスク評価に重点的に取り組むべき。
- より現実的な排出量削減の戦略を顧客に助言する方が良い。



GHGプロトコル基準を策定する基本プロセス(例)

2300+

Participants in the stakeholder process

169

Sets of written comments received

60

Number of road testers

55

Countries represented

12

In-person stakeholder events

3

Years spent completing the standards



ガバナンス計画(案)



参加の選択肢

- テクニカルワーキンググループへの参加
- ロードテストのドラフトガイダンス
- ステークホルダー諮問グループへの参加
- 資金拠出

Changing finance, financing change



UNEP **Finance Initiative**

ご清聴ありがとうございました。